

「総合的な診療能力を持つ医師」 養成の拠点を築く

群馬大学は総合的な診療能力を持つ医師の養成を強化します。群馬県や県内の医療機関と連携し、医師を目指す学生の大学入学前から卒業後まで一貫した指導体制を築きます。この取り組みを推進する「ぐんま総合診療医センター」を6月に学内に設置しました。

厚生労働省の「総合的な診療能力を持つ医師養成拠点の形成事業」の対象に群馬大学が選ばれ、同省の支援で全国モデルケースとなる総合診療医養成拠点を目指します。

❖ 患者さんを全人的に捉える ❖

医学の進歩に伴って患者さんに提供される医療は専門化、細分化が進んでいます。「総合的に診療する」とは、患者さんを全人的に捉え、特定の臓器、疾患に限定しないで多角的に見ること。こうした診療を行う医師に求められるのは、幅広く豊富な医療知識を前提とし、患者さんの不調の原因を推論する能力と、さまざまな医療機関・医療機能を結ぶ調整・コミュニケーション能力です。

患者さんが抱える心身の健康課題は、生物学的な問題だけでなく、患者さん自身の健康観、家族や地域社会、患者さんを取り巻くさまざまな環境が複合的に絡み合っています。これらを総合的に診ることが、「患者さんを全人的に捉える」ということです。

❖ あらゆる人をあらゆる場面で支える ❖

小児からお年寄りまで、あらゆる臓器・疾患、外来・救急・訪問診療・病棟など幅広い医療の場——あらゆる人をあらゆる場面で支える、地域に根差した医療に携わる医師がその代表的な姿でしょう。

❖ 地域医療資源を有効活用 ❖

人口の減少に伴い今後、群馬県内および隣接する医療圏における医師不足・偏在が深刻になることが予想されています。この課題を解消し、どの地域にいても、どのライフステージにおいても人々が安心して質の高い医療を受けられる状況を確保するには、総合診療医および総合診療マインドを持つ他の専門医をひとりでも多く地域に送り出し、限られた地域の医療資源を有

効に活用することが欠かせません。

❖ 総合医療×大学の地域医療連携を 多角的に解説 ❖

本号は4つのパートで構成しています。

【プロジェクトの概要(1～4ページ)】

総合診療医の養成を強化する本学のプロジェクトの概要とその背景を解説。「総合診療とは何か」、「なぜ今、総合診療が注目されるのか」、「ぐんま総合診療医センターの役割は？」などの疑問に応えます。

【総合診療科(5～9ページ)】

医学部附属病院総合診療科長・教授(小和瀬)と同診療科准教授(佐藤)が総合診療の考え方、対象としている疾患等を詳しく紹介します。

【群馬大学の地域医療連携(10～13ページ)】

本学の地域医療連携のキーパーソン2人(地域連携担当特命副病院長／地域医療研究・教育センター長(廣村)と同センター地域医療支援部門責任者(羽鳥))が、将来の本県医療を担う医師の育成プログラムと、新設した「ぐんま総合診療医センター」活用方法などを紹介します。

【プロジェクトへの期待(14～16ページ)】

若手医師3人(木村、堀田、栗田)の本プロジェクトへの期待、構想実現に向けての抱負です。

